



トランスフォーメーションに対応するためのパターン・ランゲージ (略称トラパタ)
A Pattern Language for (Not Only Digital) Transformation

2020年8月19日

IPA 独立行政法人
情報処理推進機構

トランスフォーメーションに対応するための パターン・ランゲージ（略称トラパタ）とは？

①制作したきっかけは？

2018年度からのDX推進に関する調査で得られた知見をさらに活用してもらうためにはどうすればよいか、IPA内で議論を重ねて生まれたものです。DX先行企業はどのようなマインドやふるまいをもって変革に対応しているのか、成功事例から共通するパターンを抽出し言語化することで、これからのスキル変革の上での1つの指針となり、**デジタルに閉じない様々なトランスフォーメーションに組織や個人がどのように取り組めばよいかについて「考えるヒント」**になるのではと考えました。

この「トラパタ」は、調査から得られた知見をベースに、**事業や組織の変革を成功させる実践知を抽出し、パターン・ランゲージ（言語化）として、全24のパターンで整理**しました。



(ご参考) パターン・ランゲージとは？

パターン・ランゲージは、**良い実践の秘訣を共有するための方法**です。**成功している事例やその道の熟練者に繰り返し見られる「パターン」を抽出し、抽象化を経て言語（ランゲージ）化**しています。そういった成功の“秘訣”ともいふべきものは、「実践知」「センス」「コツ」などといわれますが、なかなか他の人には共有しにくいものです。パターン・ランゲージは、それを言葉として表現することによって、**秘訣をもつ個人が、どのような視点でどのようなことを考えて、何をしているのかを他の人と共有可能**にします。

パターン・ランゲージは、もともと1970年代に建築家クリストファー・アレグザンダーが住民参加のまちづくりのために提唱した知識記述の方法です。アレグザンダーは、町や建物に繰り返し現れる関係性を「パターン」と呼び、それを「ランゲージ」（言語）として共有する方法を考案しました。彼が目指したのは、誰もがデザインのプロセスに参加できる方法でした。町や建物をつくるのは建築家ですが、実際に住み、アレンジしながら育てていくのは住民だからです。



[参考：CreativeShiftパターン・ランゲージの情報サイト (<http://creativeshift.co.jp/pattern-lang/>)]

(ご参考) パターン・ランゲージの良い点は？

1. 経験の交換・蓄積

「言葉」として対話の中で使うことで、「秘訣」を共有できます。

2. 認識のメガネ

「言葉」がなければ見えない現象を認識できるようになります。

3. 経験の連続性

自分の経験を活かしつつ、他の人の成功の経験則を取り入れることで、その人らしさを肯定しながら成長することを促します。

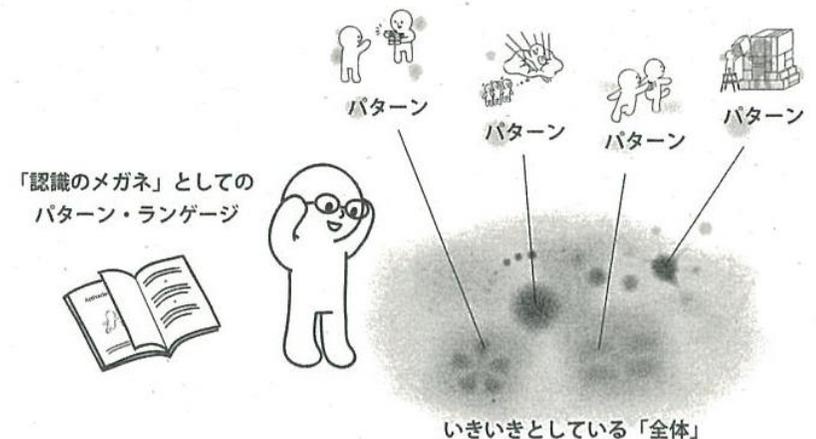
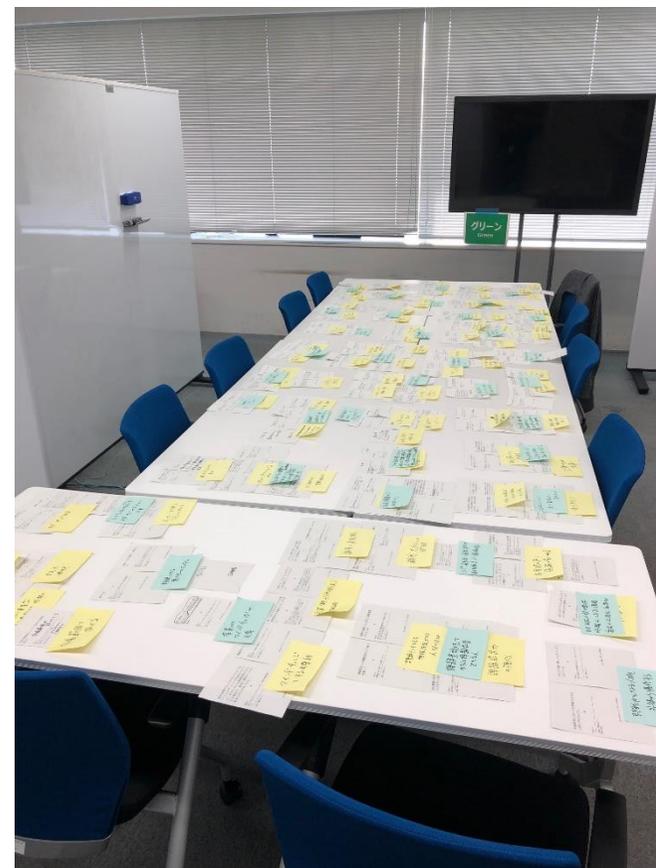
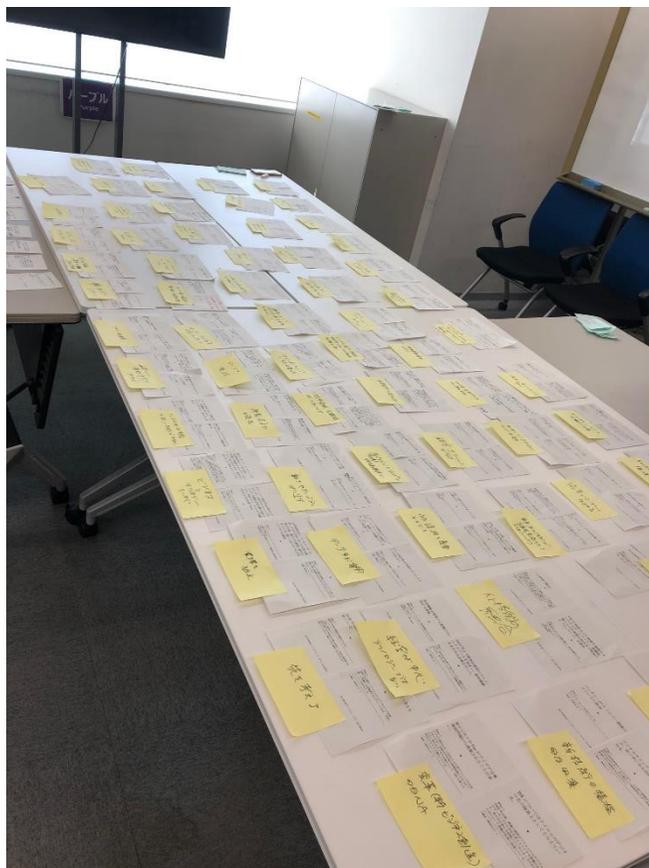
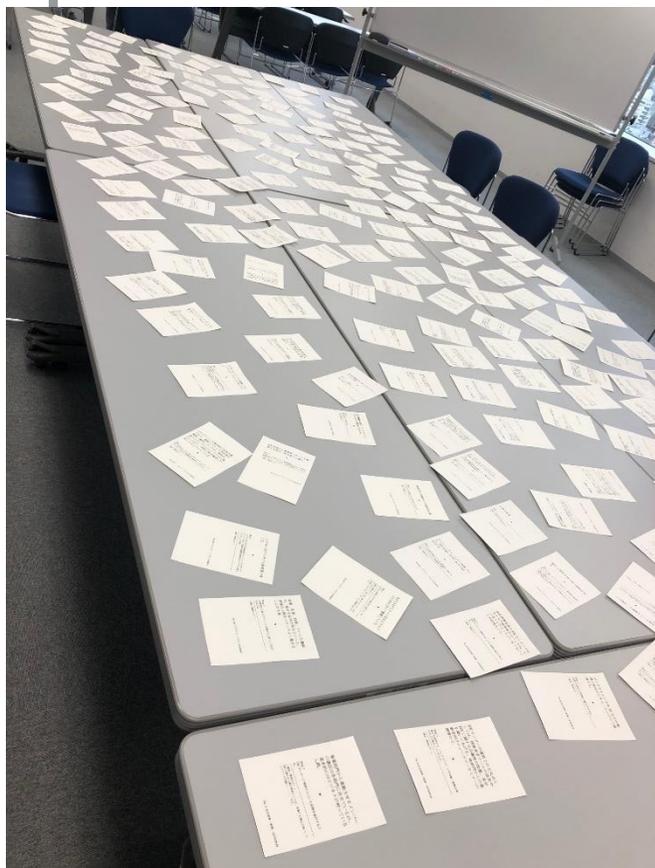


fig 7 「認識のメガネ」としてのパターン・ランゲージ

トランスフォーメーションに対応するための パターン・ランゲージ（略称トラパタ）とは？

②いくつかの事例から生まれたのか？

約**200**事例

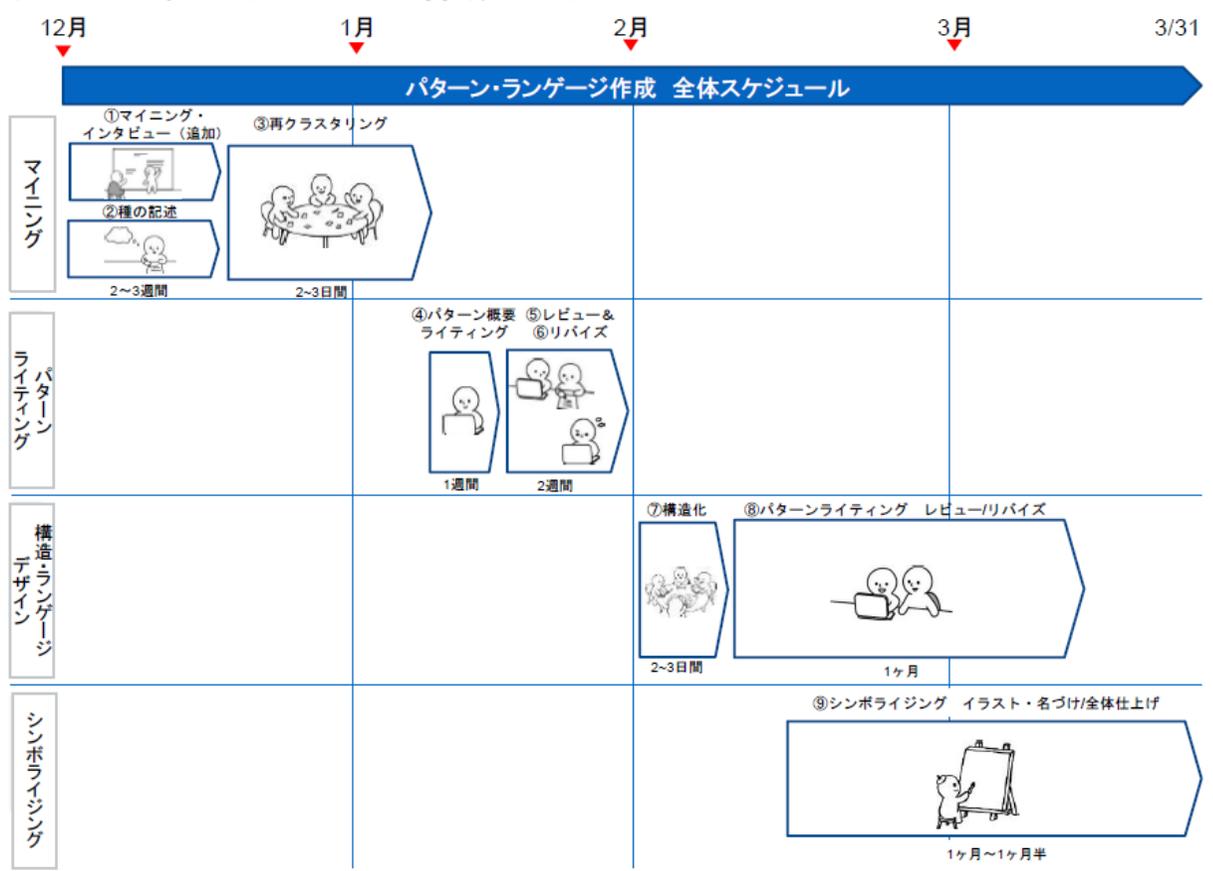


トランスフォーメーションに対応するための パターン・ランゲージ（略称トラパタ）とは？

③制作にかかった期間は？

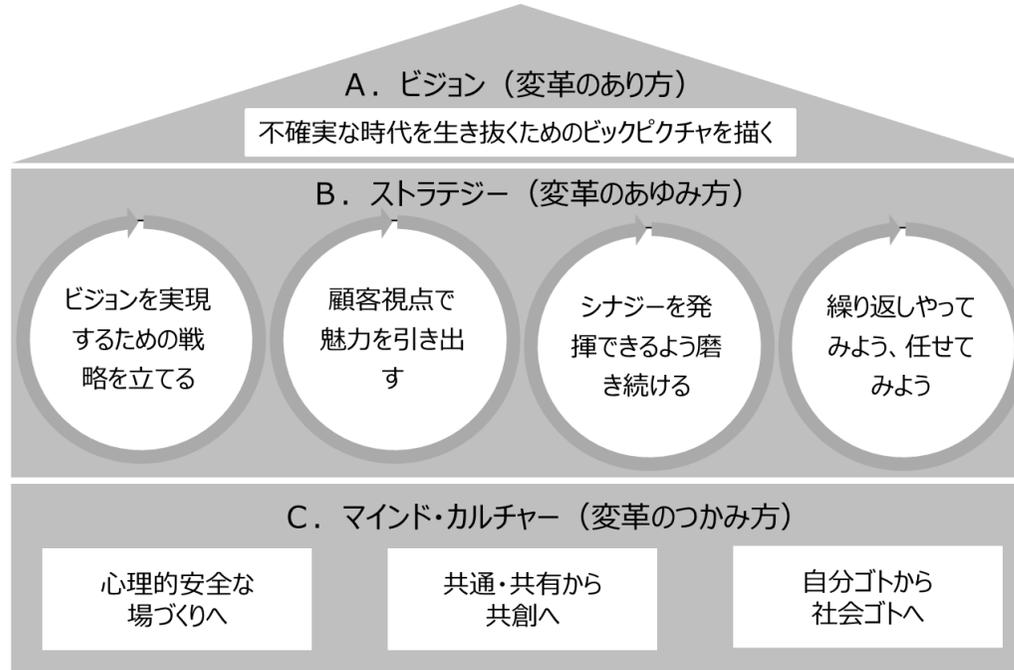
約**5**か月
(事前ミーティング含め)

パターン・ランゲージの作成スケジュール



トラパタ全体像・全24パターン

<https://www.ipa.go.jp/files/000082043.pdf>



カテゴリ	グループ	パターン
A.ビジョン	不確実な時代を生き抜くために変革のビックピクチャを描く	A1 未来妄想力
		A2 社会課題は未来の芽
		A3 未来への羅針盤
B.ストラテジー	ビジョンを実現するための戦略をたてる	B1 価値創造のためのシナリオ
		B2 枠を外して考える
		B3 実現のためのあらゆる可能性

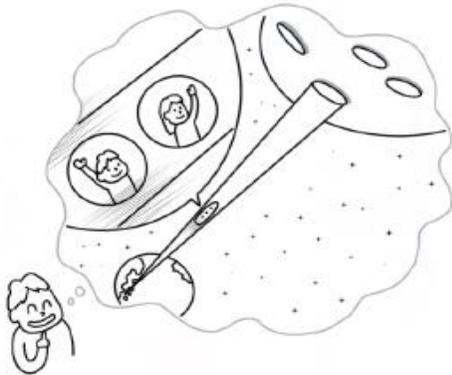
カテゴリ	グループ	パターン	
B.ストラテジー	顧客視点で魅力を引き出す	B4 顧客も知らない顧客	
		B5 共感発信から	
		B6 データに価値を語る	
	シナジーを発揮できる様、磨き続ける	B7 未知をカニ	
		B8 常にアップデート	
		B9 多文化の架け橋	
	繰り返し、やってみよう、任せてみよう	B10 チャレンジ特区	
		B11 適時適任	
		B12 高速仮説検証サイクル	
	C.マインド・カルチャー	心理的安全な場づくりへ	C1 自律自走する組織
			C2 ようこそ失敗
			C3 多様性が育む
共通・共有から共創へ		C4 共通言語で協働促進	
		C5 “サクサク”と“いきいき”	
		C6 知のシェアリングエコノミー	
自分ゴトから社会ゴトへ		C7 自分に問いを立てる	
		C8 いつまでも学びたい力	
		C9 人の輪、知恵の輪、ビジネスの輪	

トラパタ例（左側：パターンの内容を掴むための概要）

A1

未来妄想力

10年スパンで先を見据えてみると、
危機感もチャンスにつなげることができる。



①パターン番号

A1～3,B1～12,C1～9の通し番号がついています。番号が小さいものから順に読んで理解していくことも、関心のあるパターンから読み始めることもできます。

②パターン名（言葉の名前）

この名前を「言葉」として、考えるときや会話の中で使います。

③イントロダクション文とイラスト

「言葉」の理解を助け、内容をいきいきとイメージするためのものです。

トラパタ例 (右側：パターン内容の詳細)

めまぐるしい変化が起こっている。

▼その状況において

VUCA と呼ばれる不確実な時代において、ものすごいスピードで自然・社会環境や産業構造等が変化しているが、その変化に振り回されるだけでは、その組織は疲弊し、衰退してしまう。

なぜなら

- ・ 変化が生じるたびに都度対応している、結局はその場限りの対応に終わってしまうことが多い。
- ・ また、そのような対症療法では、直近の人件費など、コストがかかることばかりが気になってしまいがちである。
- ・ また、目の前の課題や問題の改善・解決にばかりに力が奪われてしまうと、新たな創造は生まれにくくなってしまう。

▼そこで

めまぐるしい変化に都度対応することも必要だが、予測不能な未来に向け、軸のぶれない進化を続けていくために、**10年20年**といった**長期的な視点**でものごとを考えていく。

例えば

- ・ 10年20年先について、その時自分や自分たちがどうありたいかを考え、まとめる。
- ・ また、現状の変化に敏感になるようにすると、長期的な変化も想像しやすくなっていく。
- ・ SDGsなどの視点を取り入れものごとを考えてみると、視点が広がり、尺度を測ることがしやすくなる。

▼その結果

- ・ 軸がぶれないので、どんな変化にも動揺しなくなっていく。
- ・ いざ危機的な状況に陥ったときも、それをチャンスに変える思考に転換できるようになる。
- ・ どんな変化にも対応できる持続可能な組織になっていく。

④状況

このコツが活きてくる「状況」が書かれています。この状況に当てはまるときは⑤の「問題」が後に起こってきたり、実は今起こっている可能性があります。

⑤問題・フォース

太字の部分が「問題」で、④の「状況」の下で起こりがちな困りごとなどが書かれています。「なぜな」に続く箇条書きは「フォース」と呼ばれ、「問題」がどのような要因から発生してしまうのかが記載されています。「問題」に当てはまる場合は、⑥の「解決」を参考にすれば、改善することができます。

⑥解決・アクション

太字の部分が「解決」で、⑤の「問題」を解消するための考え方、行動のコツがやや抽象的に書かれています。「例えば」に続く箇条書きの「アクション」は、解決策の具体例です。

⑦結果

⑥の「解決」を実践するとどうなるのかを知ることができます。



活用事例（概要）

日時：2020年6月23日（火）15：00～18：00

場所：オンライン（Zoom）

参加者：21名

集客方法：12/18第1回つながる場参加者及び7/4DXセミナー参加者への案内、IPAホームページ掲載、SNSによる告知

アジェンダ：〔〕 使用ツール

1. Zoomの使い方
2. アイスブレイク **〔リアクションカード〕**
3. 本日のグランドルール
4. インプットトーク（トラパタ制作の裏側）
5. ワークショップ^o
 - ① 今日のゴール
 - ② チェックイン **〔Zoomブレイクアウトルーム〕**
 - ③ ダイアログ（トラパタ活用WS） **〔Googleスプレッドシート、Zoomブレイクアウトルーム〕**
 - ④ 共有 **〔Googleスプレッドシート〕**
 - ⑤ 変革する上で大切なものは？ **〔Slido〕**
 - ⑥ チェックアウト **〔Slido〕**



活用事例（ワークの内容）

- ①「zoomブレイクアウト」を使って2グループに分散
- ②グループごとに「Googleスプレッドシート」を使って意見交換
- ③全体共有



できているコト・できていないコト シート

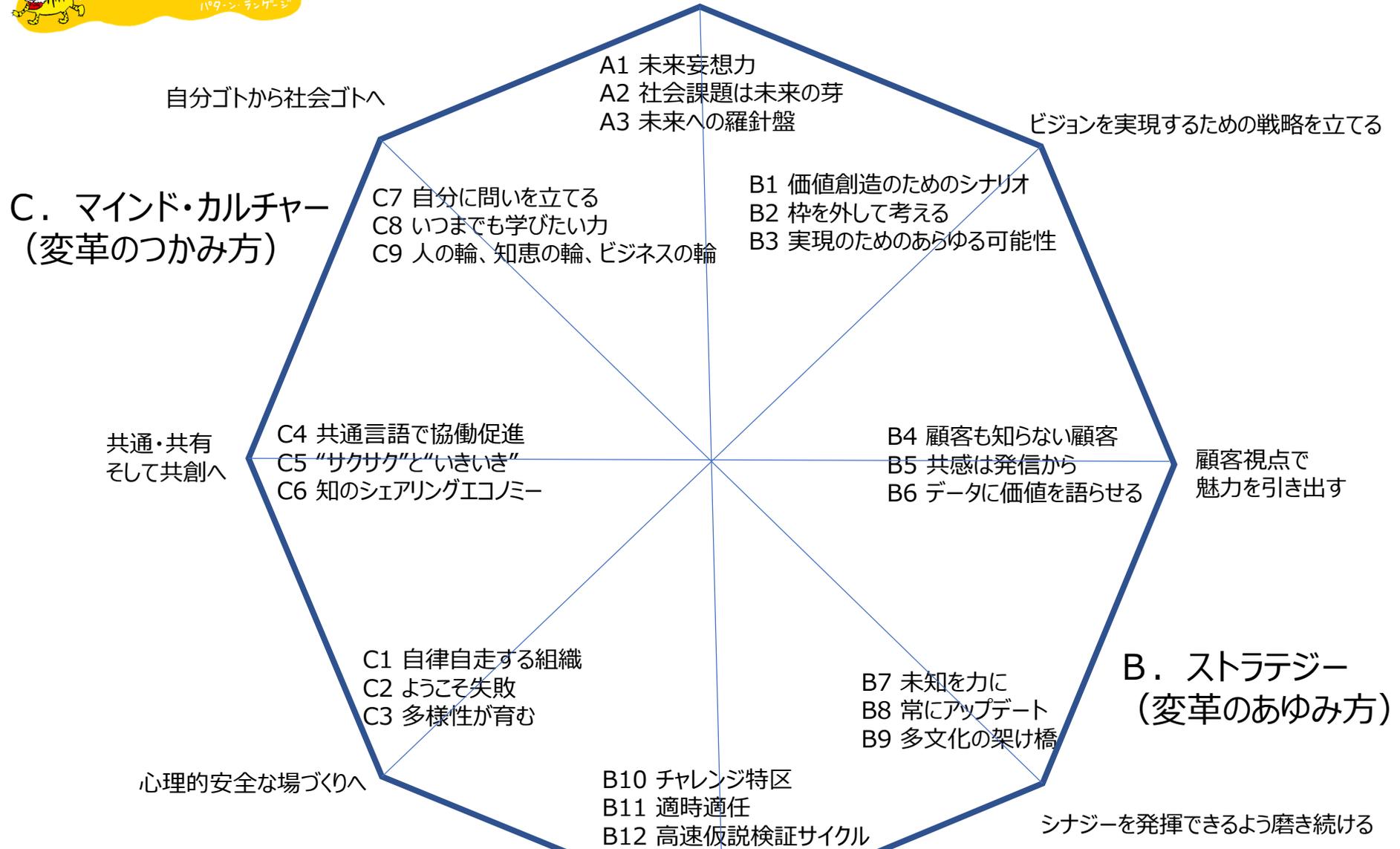
パターン番号・名	阻害要因	アクション
できているコト	どんな壁があった？	どうやって乗り越えた？
<p>W1 トラパタの中で、できているコト（うまくいったコト）があるパターンを1つ選んで、その時の経験（どんな壁があったか、どのように乗り越えたか）をグループ内で共有してください。</p>		
できていないコト	壁に感じていることは？	乗り越えるために必要なことは？
<p>W2 トラパタの中で、できていないコト（うまくいかなかったコト）があるパターンを1つ選んで、壁にかんじていることをグループ内で共有してください。</p>		<p>W3 できていないコト（うまくいかなかったコト）について 乗り越えるために必要なことは何かをグループ内で話し合ってください。</p>



A. ビジョン (変革のあり方)

(ご参考) 実践可視化チャート

不確実な時代を生きぬくためのビックピクチャを描く



C. マインド・カルチャー (変革のつかみ方)